

Podcast:#26 主の祈りには「かたち」がある - 2020/05/22

聖書人になりたい、カンノカズヒコとひろみです。今回はリスナーさんに質問です。エデンの園の2つの木、善悪の知識の木といのちの木は、主の祈りの形とどのように関係があるのでしょうか。また、どのように似ているのでしょうか。前々回は「アダムはどうすれば良かったのか」という話をし、アダムは主を恐れて取らないことによって知恵を得るはずだったと説明しました。そして前回は「なぜエデンの園には2本の木があったのか」という話をし、その知恵を得ることがいのちへの道であるという順番があることをお伝えしました。

何を求めて、いかに生きるべきかということがここで教えられています。この2つの木の実の話が聖書全体の枠組みとなっており、ストーリーの種となって実を結んでいくのです。まず、皆さんがよく知っている主の祈りから見てみましょう。主の祈りは宗教改革時のルターが「最大の殉教者」と言ったように、みんなが大切にして暗記しているのに形式的になっていることを嘆いているのです。

簡単なテストをしてみたいと思います。主の祈りには6つの課題がありますが、それを逆から言ってみてください。初めてテストを受けた時はできませんでした。初めからはスラスラ言えるのですが、逆さまになるとつまずいてしまうのです。暗記にありがちですね。

主の祈りの形にはフォーメーションがあります。フォーメーションとは、戦う時の軍団の陣形のこと、スポーツで言うとサッカーがわかりやすいでしょう。フォワードとバックがいて、攻める側と守る側の役割があり、11人でその役割を負っています。全体が一つになって戦っているのです。

主の祈りの形、フォーメーションはどうなっているのでしょうか。まず2つに分けるのは簡単です。前半は「御名、御国、御心」、後半は「我ら、我ら、我ら」となります。神様側と私たち側という祈りの課題のように覚えていますか。出だしが「父よ」で始まっているので、これは子供たちの祈りなのです。

前半の3つが聞かれると「あなたは私たちの父です」、後半の3つが聞かれると「私たちは子供です」となり、神の子らであることが明らかにされます。その父と子の愛を表すために、この3つずつという祈りの課題になっているのです。

もう1つ、前半後半ではなく、後半の3つを2つに分けてみましょう。パンの祈りがありますよね。パンの祈りはいのちの木です。そして後半の罪を許す、悪者から離れるというのは善悪の知識の木に関係します。いのちのパンと正しい裁きをする4番目、5番目、6番目の祈りの課題が2つに分けられますね。

前半はどうでしょう。主の祈りは山上の説教の中で教えられています。この後に、いのちのことで心配するな、御国とその義を第一に求めなさいとあります。それがいのちの木と善悪の知識の木です。主の祈りの2番目と3番目は善悪の知識の木になります。「御国」とその「御心」、御心というのは正しさです。「御名をあがめさせたまえ」はいのちの木となります。聖であるということは死に汚れていない、特別に栄光があるものということです。

その順番で考えると、「御名が聖とされるように」という1番目がいのちの木、「御国が来て、御心が行われる」というのが善悪の知識の木。「パンを与えてください」がいのちの木、「罪を許し、悪から守られるように」が善悪の知識の木です。

聖であること、いのちと死をさばくことは祭司の責任です。善と悪を正しくさばいて地を治めることは王の責任です。神様の形に似せて作られている私たちがなすべきこと、それをするなら与えられるもの、これもまた聖であり義である。エデンの園で与えてくださった宝物、主の祈りで求めるべき報い、これは一緒に見るのが妥当です。

次回は福音書4つ、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ、この4つの福音書を同じようにこの枠組みで見てください。善悪の知識の木といのちの木の枠組みで見た時に、どのような組み合わせになっているのか、皆さんも考えてみてください。

みことばに生きる聖書人が生まれ増えていきますように。カンノカズヒコ、ひろみでした。